



倉田小だより 2月号



横浜市立倉田小学校

～つながり いきいき 倉田っ子～

訓練は〇〇のように、本番は△△のように



副校長 松本 仁治

1月23日に発生した近隣マンションの火災の際には、引き取り下校や方面別下校等にご協力いただきありがとうございました。火災発生時には、3年生以上の子供たちが各教室におり、6時間目の学習を終えて帰りの支度をし始めるところでした。校内放送や各担任からの話を聞いて、怖さを感じていた子もいたはずですが、それでも、皆比較的落ち着いて下校している様子でした。

この火災のちょうど一週間前には、訓練があることを事前に知らせない、いわゆる「予告なしの避難訓練」を実施しました。中休み中の実施にもかかわらず、子供たちが気持ちを切り替え、真剣に行動していたのがとても印象的でした。「火災が発生したこと」と「居場所に応じた避難方法」の放送を廊下で聞いた子供たちは、声の大きさに気を付けながら、とるべき行動を確認し合っていました。また、その放送を校庭で聞いた子供たちは、遊びをすぐに中断して、中央に集まっていました。

「訓練は〇〇のように、本番は△△のように」。ご存知の方もいらっしゃると思いますが、〇〇には「本番」、△△には「訓練」が入ります。倉田小学校の避難訓練では、校長先生の振り返りのお話の最後に、全員でこの言葉を必ず唱えることになっています。訓練を重ねることに併せて、子供たちが少しでも落ち着いて行動しようとする気持ちをもつことができれば、災害や事件、事故から自分の身を守る確率をより高めることができるはずです。

国内ではこの10数年の間に、東日本大震災や熊本地震、そして先月の能登半島地震等が起こり、各地に甚大な被害をもたらしています。昨年3月には、埼玉県内の中学校に不審者が侵入し、教員が怪我を負うという事件が起こっています。今後、いつどのような事態が起こるかは、誰にも予測できません。

学校が防災教育を継続的に行い、防災意識を高めておくことがいかに大切かを、この機会に改めて考えさせられました。日中は学校で生活している子供たちですが、起きている時間の1年間の合計のうち、学校で過ごす時間の割合は3割以下にとどまるそうです。長い時間を過ごすご家庭でも、いつ起こるか分からない災害や事件、事故への対処方法や心構え等について、お話する機会を設けて頂けると幸いです。